

# スイカ 育苗資料

培土は排水の良いものを使用し、自家培土の場合はECやpHを測定したほうが良い。購入でも即効性窒素が多いものは控える。

せっかくの自家育苗なので、断根育苗されている方には、少々手間はかかりますが台木の鉢上げ（居接ぎ）をお勧めしたいと思います・・・苗質向上

断根育苗によって発生する不定根は、生育旺盛で地表近くを伸長するため、見た目の生育は順調でも、地温や水分変化の影響を受けやすくなります。

これに対して発芽時に発生する**種子根は、不定根よりも地中深く伸長する性質**があるので、初期の生育は緩慢でも、環境変動に左右されにくい傾向にあります。

## [ 播種から接木までの管理 ] ( スイカの発芽最適地温：25～28 ・ユウガオ台木の発芽最適地温：25 前後 )

播種床は前日までに準備し、十分に灌水してから発芽床で一昼夜おいて水分を均一にする。

播種後も古新聞等の覆いだけをかけ、加温しないで（10～20 の低温で）一昼夜おき、種子に充分吸水させてから加温する。

台木の鉢上げは子葉展開時に行う。ユウガオはスイカよりも耐乾性・低温伸長性が強いので、スイカよりも気温・地温とも低めに管理し、活着後は灌水もできるだけ控える。

スイカの胚軸は、日照不足（厚蒔き）・水分過多（過湿）・根傷みによって徒長し、接木の活着不良の一因となる（播種量の目安：播種箱1枚に1袋まで）

加温開始後4～5日で胚軸が見え始めるので、できるだけ早く新聞等の覆いを除去して硬化・緑化させる。同時に最高地温25 / 最低地温15 程度に下げる。

接木の活着は、接木後の管理ももちろんですが、接木前の苗質がその成否を大きく左右します。

## [ 接木について ]

接木に適した生育段階は、台木の本葉が1円玉程度、穂木は本葉1枚目が3mm程度伸長した程度です。

（早すぎると、活着は良いが穂の軸が徒長し、遅いと組織が硬化して活着率低下の原因となります。）

まず台木に充分灌水して、吸水したところで作業に入ります。

接木後のべたがけは、過湿による芯止まりや病害発生の原因になりやすいので、トンネルによって湿度保持を行う（生長点を濡らすと芯止まりが増える）。

遮光・密閉期間はできるだけ短期間に終わるようにする・・・ここが断根か自根か、また苗質によっても大きく左右される。

接木した部位が濡れていると、活着不良や自根発生の原因になるので、日中多少萎れるくらいの管理でよい。

接木の活着にも同化養分が必要です。慣例的に遮光せず、多少の萎れは我慢して、1分1秒でも長く光をあてること。また遮光率もできるだけ下げることが重要です。

穂木の芯止まりについて・・・生長点が濡れている状態で（接木養生中も含めて）多い。これに低温条件が加わるとさらに多くなる。

## [ 定植までの管理 ]

接木活着後・または購入セル苗の鉢上げ後は、気温：33 ~ 10、地温：最低14程度を目安とし、気温については一日の温度格差をつけることが重要です。

(ただし購入苗の鉢上げ直後は、根が活動を開始するまで地温17以上を保ち、根の伸長を確認してから地温を下げるのが良い。)

夜間の高い空中湿度と高温は、苗を徒長させる最も大きな要因です。したがって空中湿度を下げるため、夜間も1番下の覆いは密閉しないこと。

灌水は緊急の場合を除いて晴天日の午前中とし、必ず夕方までには茎葉を乾燥させること。

低温期には、ハウス内といえども地表近くの温度は低いので、日中でもトンネル全開にすると低温になる場合もある。温度計を必ず設置してこまめに見る習慣を！

葉が重ならないよう、ずらしは早めに行う。



( 図 ) 二重トンネル育苗の様子

写真では中が見えるようにビニールを開けているが、夜間は外張りビニールがハウス中央通路側で10cm程度、内張りビニールもトンネル最上部で10cm程度、それぞれ開けてある。

これにより、内張りトンネル内の温度低下を抑えつつ、湿度は外張りビニールに結露して付着、外へ逃がすようになっている。

\* 内張りビニール内の小トンネルは、接木養生のためのもの。



定植時の苗姿：節間が上部まで伸びておらず、葉は濃緑で切れ込み深く、白い毛が目立つ姿が最良。

若苗定植では草勢強めに仕上がりが、老化苗定植ではおとなしく仕上がるので、それぞれの圃場条件・時期を考えて定植しましょう。

早期定植分は株間を広くとって、安定的な着果を！ つる数の確保・雌花の安定着生には子づる摘芯も効果的。

定植後、活着までは晴天日で33 ~ 13、主枝長さ30cmの頃から35 ~ 10程度(時々なら10以下でもかまわない)に管理。

夜間は、一番内側のトンネルに水滴が付かないよう、交互すそ開け換気を行う。温度的に不可能な場合でも内側だけは開けておく。

草勢が過度につきそうな場合は、“整枝のタイミングを遅らせる”、“株元摘葉の励行”によって対応。

交配5日前あたりから最低気温を13 ~ 15と高めに管理。

葉の様子を見て樹の状態を判断してください(立ち方・切れ込み・色・・・)

